

# 市重要文化財 芦白神社

指定 昭和51年 本郷町南方 与茂九郎池内の小島

守り・伝える・文化財

14

三原市はまもなく田植えの最盛期を迎えます。稲は命の根からともいわれ、弥生時代に稲作が渡来して以来、米はわが国の主食として、つい最近まで経済の中心であり続けました。水稲といわれるように生育に水は最も重要で、特に田植えと穂がでる時期の水不足は収穫に深刻な影響を及ぼします。今回は農民が米作りに携わりながら、自ら収穫した米を満足に口にできなかった時代の稲作と水の話です。

本郷町南方尾原地区は、追分から梨和川に合流するまでの尾原川に沿った地帯で、川や湧き水を利用して百戸の農家により稲作が営まれていた江戸時代中期の明和のころ1764年〜1771年度重なる水不足により農民が苦しむ姿を目にした南方村尾原の組頭、児玉政次郎はため池を造り、干ばつに備えようと心に決めました。水量があ



▲石造りの芦白神社。現在木々が茂り、陸地からは屋根部分を見ることができる



兼保義之さん  
問い合わせ先  
生涯学習課  
(☎0848⑥2137)

つて、堤防で締め切りやすい土地を探して、幾日も山々を歩き回った末に、尾原川上流の与茂九郎谷を見つめました。建設機械がない当時、土木工事は多くの人手と資金を要します。村人を粘り強く説き伏せ、三原の領主から資金を借りることができた政次郎は、ようやく着工にこぎつきました。ところが予想以上の難工事で、用意した資金も残り少なくなり、去っていく人も出ましたが、私財を投げ出して費用をまかないながら、村人を励まし工事を続けました。そして着工4年目の安永3年(1774年)に完成したそのため池は、周囲約1km、面積1.2haの大きなもので、尾原60haの水田を潤して余りあるものでした。

その後、政次郎は真良村、南方村の庄屋を務め、寛政元年(1789年)に死去したと伝えられます。戒名は丘柳固浪芦白居士。明治24年尾原の人々は、功績をたたえ、与茂九郎池の小島に芦白神社を建て、その霊を祀りました。満々と水をたたえ、旱月の風にそよぐ早苗を見るにつけ、その恩恵の深さがしのべれます。(文／文化財保護審議会副会長 兼保義之さん)

**税の納期**

◎軽自動車税

納期限 6月2日(月)

※納税通知書は今月初旬に発送します。

※税金・保険料は納期限までに納めましょう。

**だるま制作体験教室**

①だるま制作体験教室 初心者向け4日間コース

とき 7日(水)・14日(水)・21日(水)・28日(水) 10時〜12時

②だるま面相書教室

とき 10日(土) 10時〜12時

ところ いずれも三原だるま工房港町一丁目

定員 各8人申し込み先着順

参加費 各500円

申し込み先 三原観光協会

(☎0848③1481 FAX 0848⑦5911)

**市民憲章**

わたしたちは、海・山・空 夢ひらくまち三原をめざして、この憲章を定めます。

- 一 豊かな自然をいかし、美しいまちにしましょう。
- 一 歴史と文化を大切に、人をほぐくむまちにしましょう。
- 一 みんなで助け合い、人がふれあうまちにしましょう。
- 一 心もからだも健康で、明るいまちにしましょう。
- 一 楽しく働き、活力あるまちにしましょう。

**三原市の人口**  
(3月31日現在)

世帯数	43,663世帯 (+203)
人口	104,253人 (-684)
男	50,045人 (-323)
女	54,208人 (-361)

( )内は前年同月との比較

**あ・と・が・き**

皆さん、お祭りは好きですか？思い浮かべてみると、三原にもたくさんのお祭りがありません。伝統が受け継がれ、歴史ある祭りや、多くの露店が立ち並び、イベントが盛りだくさんの趣向を凝らした祭りなど。どの祭りにも共通する魅力は、やはり世代を超えて多くの人が集まり、にぎやかな交流の場となっているところでしょうか。先日取材に行った能地春祭りでも、子どもたちと地域の人々が楽しく会話している姿を見ることができました。▼今月24日・25日には、宮浦公園で毎年恒例の三原さつき祭りがあります。ぜひ、皆さんも参加して、祭りを盛り上げましょう。▼さつき祭りにちなんで、ページのイラストを市の花サツキにしました。

(あ)

